

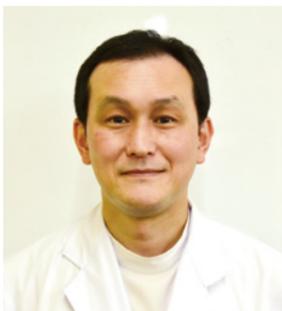
退任医師の紹介

第一脳神経外科 部長 継 仁



私は、2011年4月福岡赤十字病院に赴任し、2025年3月末をもって定年退職を迎えることになりました。在職中は、専門の脳腫瘍を中心に診療、治療に携わって参りました。14年間の長きにわたり、地域の医療機関の皆様、大変お世話になり有難うございました。また多くの患者さんの皆様、これまで福岡赤十字病院・脳神経外科を受診いただき誠に有難うございました。現在外来治療中の患者さんの皆様、担当医が交代することをお詫び申し上げます。今後私は、手術治療には携わらず、民間の病院で微力ながら地域医療に関わらせて頂きます。これからも引き続き、福岡赤十字病院脳神経外科をよろしくお願ひいたします。

第二脳神経内科 部長 緒方 利安



この度、福岡赤十字病院脳神経内科を離れることとなりました。在職中は皆様に大変お世話になり、心より感謝申し上げます。私が福岡赤十字病院で過ごした3年間は、医師としてのさまざまな経験を積むことができた、充実した日々でした。いろいろとご指導いただいた同僚の脳神経内科、脳神経外科の先生方、サポートしてくれた看護師やリハビリテーションのスタッフの皆さん、そして臨床研究センターのスタッフの皆さんには大変お世話になりました。福岡赤十字病院は、福岡市の地域医療・救急医療を担う病院ですが、その一員として、私も微力ながら貢献できたことを誇りに思います。脳神経内科の診療においては、多くの患者さんと向き合い、様々な症例を経験させていただきました。また、福岡赤十字病院は医療技術の向上だけでなく、チームで取り組むことの重要性を教えてくださいました。脳卒中相談窓口や臨床研究センターの開設に携わらせていただいたことは私の大きな思い出です。2025年4月1日より福岡大学病院脳神経内科へ異動いたします。福岡赤十字病院を離れることは寂しいですが、ここで学んだことを胸に、これからも医師として精進してまいります。末筆ではございますが福岡赤十字病院の益々のご発展と、皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

リハビリテーション科 部長 由布 竜矢



2025年3月をもちまして、当院を退職することとなりました。私は東日本大震災の直後の2011年4月に当院の整形外科に着任いたしました。日本中が戦々恐々としている時期で、災害時の救護活動も当院の大事な役目でしたが、私自身は、1度も被災地救護に携わる経験は出来ませんでした。しかし定期的に開催される救護訓練や講習会、災害医療訓練などにおいて、有事に備える心構えやノウハウ、そして日本全国、ひいては世界中で困っている方々に手を差し伸べる博愛精神の大切さについてもしっかりと学ばせていただきました。また、整形外科医といたしましては、脊椎疾患や膝関節疾患、外傷など、幅広く、数多くの症例を経験させていただきました。ご指導いただいた整形外科の諸先輩方や同僚の先生たち、また、貴重な症例をご紹介いただいた近隣の医療機関の皆様には深く感謝しております。そして、最後の3年間は、リハビリテーション科部長として、急性期からの早期リハビリ介入へのシステム構築・拡充に、大変微力ながら活動させていただきました。ご協力いただきました各先生方、リハビリテーション課スタッフの皆様、看護師さんやメディカルの皆様、またスタッフ増員等にご尽力いただきました事務方の皆様にも深謝いたします。これまで当院で培ってきた経験を生かして、今後も精進して参りたいと思います。14年間ありがとうございました。

耳鼻咽喉科 部長 高岩 一貴



福岡赤十字病院耳鼻咽喉科が再標榜された2019年に着任させて頂き早くも6年、福岡市南区の耳鼻咽喉科診療の一助となるべく耳科・鼻科手術を中心に安心・満足して頂ける手術を心がけ、大きな問題もなく無事に勤め上げることが出来ましたのもひとえに病院スタッフの皆様からのサポートがあってこそでした。感謝申し上げます。またこの6年間は当科へご紹介いただいた地域連携病院・クリニックの先生方のご期待に添えるような診療を心がけました。おかげさまで紹介状も年々増え、今年に至っては300症例を優に超える手術症例の執刀をさせて頂くことができました。深く御礼申し上げます。私事ですがこの度、縁あって南区高宮で開業することとなり、同地で37年の長きに渡ってご診療なされた岡田修一先生(岡田耳鼻咽喉科医院)のお志を受け継がせて頂くこととなりました。これからも福岡赤十字病院とのご縁を大切に福岡市南区の地域医療に邁進する所存です。今後とも宜しくご指導の程お願ひ申し上げます。

Greetings of moving

退任医師の紹介

循環器内科 副部長 松川 龍一



このたび、2025年3月をもちまして福岡赤十字病院循環器内科を退任させて頂くこととなりました。2015年に赴任し、2019年からは副部長として10年間勤務させて頂きました。この10年間にPCI症例数の増加、心不全における多職種チーム医療の導入などに尽力してきました。さらにカテーテルアブレーションの導入もあり、赴任当初から比べるとスタッフの数も倍となりました。ハイボリュームセンターとして福岡地域の医療に少しでも貢献できるようになったのではないかと思います。この10年間、院内の様々な科の先生方、そして地域の先生方には大変ご迷惑をお掛けしました。皆様に支えられ、この10年を乗り越えてこれたものと思います。本当に皆様には感謝申し上げます。これからも福岡赤十字病院のより一層のご発展を心より願っております。

眼科 副部長 山口 宗男



2022年4月に赴任し、2025年3月まで3年間眼科医として勤務しました。赴任時はまだコロナ禍であり、患者さんが手術前に熱発したり、そもそも病棟閉鎖で入院できずに手術が延期になることもあり、手術件数の確保に苦勞しました。まだ、コロナ禍前の水準までは戻ってはいませんが近隣の先生方より多くの患者様をご紹介いただき症例数を増やすことができています。また、どうやって生活していたのかと心配になるくらい進行した白内障や増殖糖尿病網膜症の症例を多く経験できました。ありがとうございました。4月からは気が重いです、九州大学病院勤務となりました。日赤病院での経験を活かして、後進の教育にも力を入れたいと考えています。3年間と短い間でしたが大変お世話になりました。ありがとうございました。今後も福岡赤十字病院眼科をよろしくお願ひします。あまり大きな声では言えませんが、私は九州大学病院眼科の外来にいますので、こちらの方にもご紹介よろしくお願ひいたします。

歯科 副部長 丸瀬 靖之



2023年4月からの2年という僅かの期間になりますが、2025年03月末をもって、退任することになりました。地域連携機関および受診患者の皆様、院内スタッフの皆様には大変お世話になりました。赴任時、私に課せられたmissionといたしましては、①地域歯科医師会との連携の構築②院内患者に対しての口腔ケアを含めた医療の質の向上③歯科口腔外科自体の診療内容の向上等があったと考えます。これらの事案に対して、微力ながら取り組んだ結果、赴任前1300名程度であった新患者数は本年度2100名程度まで増加させることが出来ました。断絶されていた地域の歯科医師会との関係も、三顧の礼を尽くして回復が叶いました。また、院内他科からの紹介も歯科スタッフが院内を縦横無尽に駆け回ってくれて、微増傾向を維持できました。赴任前に中止されていた入院や全身麻酔下での治療に関しては、師長様はじめ病棟・手術室スタッフのご協力のおかげでほぼ0から立ち上げることが叶いました。これから更に発展させるべきタイミングで職を辞することとなり、大変申し訳ない気持ちでいっぱいです。次年度からは未来の歯科医師・口腔外科医を育成するため、また、自己の手術手技の研鑽のため、ひいては地域歯科医療の一助となるために、大学病院での勤務に邁進していく予定です。歯科口腔外科は、新年度、歯科衛生士が1名増員され、より院内の医療の質の向上に貢献できる体制になると思います。院内のチーム医療の一つとして口腔ケアチームも立ち上がります。院内院外問わず、皆様、変わらずご愛顧の程、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

Greetings of moving

着任・就任医師の紹介



第二消化器内科 部長 鳥巣 剛弘

私は1999年に九州大学を卒業し、その後は九州大学の病態機能内科(2内科)の消化器研究室で研鑽を積んでまいりました。消化管がんの診断と内視鏡治療、炎症性腸疾患の診断と治療などを中心に診療を行ってきました。九州大学病院では様々な希少疾患の治療経験も得ることができました。臨床だけではなく米国のNIHに留学しオートファジーの研究を行い、その後も炎症性腸疾患の治療メカニズムについて分子生物学的な研究も行いました。また九州大学では2018年より消化器研究室主任として研究室を運営し、研究室員とともに臨床と研究に励んできました。

当院でも消化器内科医としてこれまで以上に正確かつ丁寧な診療に努める所存です。当院に赴任してからは急患が非常に多いことに驚いておりますが、多彩な疾患に迅速に対応できるよう一生懸命頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。



第二呼吸器外科 部長 三好 圭

私は2022年に当院へ赴任し、今年度より第二呼吸器外科部長を拝命いたしました。専門分野は呼吸器外科疾患に対する外科手術です。これまでJCHO九州病院、九州大学病院などで主に肺癌・縦隔腫瘍手術の内視鏡(胸腔鏡)手術を行って参りました。当院ではロボット支援手術(ダヴィンチ)も行っております。

今後も患者さんに寄り添った丁寧な説明、診療を第一に考えて、病院スタッフとともに患者さんや地域の先生方に信頼されるような医療を行っていききたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



脳神経外科 部長 武村 有祐

平成12年福岡大卒、福岡大学脳神経外科へ入局後は、大学病院及び関連病院にて診療に携わり、脳血管障害、頭部外傷を中心に、主に救急医療を扱う現場に従事しておりました。当院では開頭手術のほか、内視鏡手術、血管内治療といった低侵襲手術も積極的に取り入れバランスのよい治療を提供できたと考えております。また脳神経内科とも協力し、常時脳卒中患者の受け入れ、血栓回収療法にも対応してまいります。自身、福岡市の出身でもあり、より一層地域医療に貢献できたらと思う次第です。微力ではございますが尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



耳鼻咽喉科 部長 吉田 崇正

こんにちは、今春から当院に赴任した吉田崇正です。専門は耳・めまい領域ですが、これまで福岡市内の病院や前任地の佐世保市にて耳科・鼻科・咽喉頭・頭頸部外科の幅広い疾患の診療を行ってまいりました。当院の耳鼻咽喉科は2019年から一般診療を再開して7年目となります。今年度は私を含む3名が交代し、常勤医5名体制(吉田崇正、高良佳江、宮崎真優、犬塚杏子、奥田華英)で、丁寧な診療を心掛けてまいります。

当科では診断のための適切な検査と手術的治療・入院治療に力を入れています。耳科分野では慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎などに対して手術療法を、突発性難聴、前庭神経炎、末梢性顔面神経麻痺などに対してはステロイド等の入院薬物療法を行っております。基礎疾患のある場合も他科と連携してできる限り対応させていただきます。鼻科分野では慢性副鼻腔炎・好酸球性副鼻腔炎に対する硬性内視鏡を用いた手術を、合併症リスク低減のためナビゲーションシステムを併用して行っています。また、鼻閉の強い症例には鼻中隔矯正術・粘膜下甲介骨切除術や日帰りのレーザー治療が適応となります。咽喉頭領域では慢性扁桃炎・睡眠時無呼吸等に対して扁桃摘出術を、声帯ポリープなどに対して喉頭微細手術を、入院を要する急性疾患には抗菌・消炎治療を行っています。頸部領域では主に良性疾患(甲状腺・副甲状腺腫瘍、唾液腺腫瘍、唾石症、甲状舌管嚢胞など)を対象として手術を行っており、悪性腫瘍については九州大学耳鼻咽喉・頭頸部外科の関連病院と連携して対応させていただきます。

2025年度も地域近隣の先生方のご期待に沿えるよう、医療連携の一翼を担うべく日々研鑽を積む所存です。

Greetings of moving

福岡赤十字病院ゲノム医療推進室のご紹介

福岡赤十字病院は2023年2月に厚生労働省から「がんゲノム医療連携病院」の指定を受け、がんゲノム外来を開設しました。この度、より幅広く、最先端の医療技術を患者さんに提供するため、新たに遺伝カウンセラーを採用し、「ゲノム医療推進室」を立ち上げました。ゲノム医療は、患者さん一人ひとりの遺伝情報をもとに、最適な診断や治療を行うプレシジョン・メディシンの一環として、近年急速に発展している分野です。ゲノム医療推進室は、この革新的な医療を実践し、患者さんにより良い医療を届けることを目的としています。



ゲノム医療とは、個人のDNA情報を解析し、疾患の予防や早期発見、最適な治療法の選定に役立てる医療のことを指します。特にがんや遺伝性疾患などにおいて、ゲノム情報を活用することで、より効果的な診断や治療が可能になります。

ゲノム医療推進室の役割

当院のゲノム医療推進室では、以下のような取り組みを行っています。

- 1 ゲノム解析の実施 患者さんの遺伝情報を解析し、個別化医療を実現するための基盤を構築します。
- 2 臨床への応用 遺伝子情報に基づいた診断・治療の最適化を図り、患者さん一人ひとりに適した治療方針を提案します。
- 3 専門的な相談・カウンセリング 遺伝カウンセラーや専門医が、患者さんやご家族の疑問や不安に対して丁寧に対応し、適切な情報を提供します。
- 4 教育・啓発活動 医療従事者向けの研修や一般向けの講演会を開催し、ゲノム医療の理解を広げる活動を行います。
- 5 研究および連携 将来的には大学や研究機関と協力し、新たなゲノム医療の開発・実証研究を進めるとともに、国内外の医療機関とのネットワークを構築していきます。

地域連携病院の皆さまへ

福岡赤十字病院では、地域の医療機関との密接な連携を大切にし、患者さんに最善の医療を提供することを目指しています。ゲノム医療に関する詳細は当院ホームページをご覧ください。

詳しい情報は
こちらから





(写真1)

消化管は全長約9メートルもある細長い管状の臓器で、当科ではバリウムを使ったX線検査や内視鏡検査を行い、正確な診断と最適な治療に努めています。上記写真は診療を担当する消化器内科医師8名、研修医2名、8西病棟師長、放射線・内視鏡師長です。

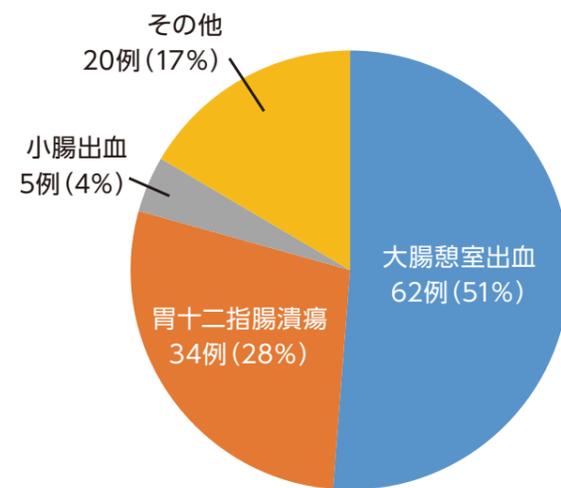
当科は緊急を要する疾患が多く、必要時はオンコール体制で24時間いつでも対応可能です。代表的な救急疾患としては消化管出血がありますが、直ちに内視鏡検査を実施して出血部位を確認し、同時に止血も可能です。消化管出血の原因は、以前は胃や十二指腸の消化性潰瘍が多数を占めていましたが、ヘリコバクター・ピロリ菌の感染率低下とともに少なくなり、最近では大腸憩室出血が多く過半数を占めました(図1)。特に、脳梗塞や虚血性心疾患などに対し抗血栓薬で血液をサラサラにする治療を受けている方や、腰痛や感冒などで解熱鎮痛薬を服用している方は、大腸憩室から出血を起こすことがあります。緊急内視鏡では内視鏡の先端から処置具を出して、出血部位をめがけてクリップで止血を行います。上部および下部内視鏡検査で出血源を認めない場合は、小腸の血管性病変から出血していることがあり、出血部位がなかなか特定できないことがあります。当科ではダブルバルー式

小腸内視鏡を導入し、内視鏡的止血術で治療し得た小腸出血の症例を経験しています。

消化管は、がんの好発部位であり、早期発見・早期治療が重要であることは言うまでもありません。最近では、内視鏡を用いた治療技術が著しく進歩し、早期がんの多くは内視鏡的な手術により、おなかを切らずに完治するようになりました。しかし、そのためにはがんをできる限り早期に発見する必要がありますので、無症状あるいは症状が酷くなる前に検査を受けることが肝心です。当院では最先端の内視鏡機器を設置して、健診センターとともにがんの早期発見と早期治療に取り組んでいます。

健康づくりの第一歩は、美味しくご飯を食べることです。「おなかが痛い」、「下痢している」、「吐き気がする」、「便に血が混ざる」など、日常でもよく経験する消化器症状は、重要な病気を発見する糸口になることがあります。胃腸の病気で気になることがありましたら、是非消化器内科を受診して検査を受けましょう。

消化管出血の内訳(図1)



(2024年1月~12月 総数121例)



地域とともに！

登録医紹介

当院の基本理念である「信頼と調和に基づく最良の医療～地域を尊重、世界を視野に」を行うための心強いパートナーとなる登録医の先生方をご紹介します。

平野医院

Q 開設から現在について

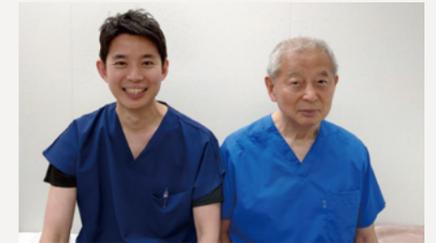
当院は1978年、私の父・平野雅士が小笹に開院しました。2020年からは、私・平野敦士が加わり、親子二人体制で診療を行っています。私は地元・小笹小学校、平尾中学校の出身であり、地域に深く根ざした診療所として、皆様の健康を支えていきたいと考えています。

Q 診療体制や特徴

父は元外科医として長年地域医療に従事し、私は内科医として救急病院や大学病院で多くの症例を経験してきました。この二人の知識・経験・技術を統合し、より質の高い医療を提供できるよう努めています。診療内容は、高血圧・糖尿病・脂質異常症といった生活習慣病、風邪・インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症などの感染症、喘息などの呼吸器疾患をはじめ、ほとんどの内科疾患に対応しています。特に消化器疾患に関しては、内視鏡検査や潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患の治療など、高度な専門的診療を行っています。

Q 地域の方々へのメッセージ

当院は「親切で適切な診療」をモットーに、地域の皆様に安心して頼っていただける医院を目指しています。私自身、福岡赤十字病院での勤務経験があり、当院のみでの対応が難しい場合には、福岡赤十字病院の先生方と密に連携しながら最善の医療を提供いたします。「どの病院を受診すればよいかわからない」といった場合も、どうぞお気軽にご相談ください。皆様の健康を支えるパートナーとして、お力になれば幸いです。



院長 平野 敦士 先生
住所 〒810-0033 福岡市中央区小笹2丁目1-5
TEL 092-531-1047
診療内容 内科胃腸科
診療時間 月火水金 9:00~12:00 / 14:00~18:00
木土 9:00~12:00
休診日 日曜・祝日



ひめの胃腸内科クリニック

Q 開設から現在について

当院は2011年9月、南区大橋に開院しました。西鉄大橋駅から徒歩5分、高宮通りが南区役所の西側で分岐する新道沿いにあります。福岡赤十字病院で初期臨床研修および後期臨床研修(消化器内科コース)で研鑽を積み、その経験を生かして地域の皆様のお役に立ちたいと思い、この地に開業しました。

Q 診療体制や特徴

主に消化器内科、胃腸内科、漢方内科を専門にしながら一般内科診療を行っています。消化器内科に関しては上部及び下部消化管内視鏡検査、腹部エコー検査などを実施しています。一般内科に関しては生活習慣病の治療・指導や発熱外来を実施しています。漢方にも精通していますので、エキス剤が主ですが各種症状に対して西洋医学と東洋医学の「いいところ取り」をして診療を行っています。

Q 地域の方々へのメッセージ

開業して約13年になりますが、地域の皆様に重宝されるようなクリニックを目指して日々精進しております。福岡赤十字病院は平川副院長をはじめ、今でも多くの先生方と面識があり、気兼ねなく相談させてもらっています。大きな病院では難しい、一人ひとりの患者様に応じた治療を、漢方などを活用しながら診療しております。スタッフ一同、患者様に誠心誠意対応してまいりますのでどうぞよろしくお願い致します。



院長 姫野 祐一郎 先生
住所 〒815-0033 福岡市南区大橋4丁目27-4
TEL 092-559-5211
診療内容 消化器内科・胃腸内科・漢方内科・一般内科
診療時間 月火水金 9:00~12:00 / 14:00~18:00
木土 9:00~12:00
休診日 木曜午後 / 土曜午後 / 日曜・祝日

